P
279
9

逍遙文庫
文庫6
27
9

頭書増補訓蒙圖彙巻之二十

花草

此部にいとをゝくの草花を収むる

○牡丹いはゆるみぐさともいふ花乃王ともいふ花多し紅白あり紅を上品とす花の富貴なるものゝ王と古人も賞ぜり一名花王又木芍薬ともいふ牡丹皮とて薬に用ゐ

文庫6
27
9

○芍藥ハ三枝五葉ヨリ花牡丹ヨ似くをこ一ゆさ
し夏の初ヨ花さく紅白紫あり花相時離とりて
根と葉ふ別る
○撫草ハ葵ハ蕪菁の如くありて花ばふ白ヨリ
ハ三月花さく

芍藥
よしぐさ
撫草

○葵ハ数名ヨリ葉大ありて花ハ紅又ばふあり又月花さく実ハ大さ物のごくかくさくしそ扁ヨリ
○蜀葵ハこれあり花ふ赤ふひかり花ふ赤ふ濃紅別して
○冠葵同又
戒葵ともハ
○錦葵ハこれあり
又淺葵ともハ
荆葵ハ

錦葵
こあふひ
葵
あふひ
蜀葵
つくあふひ

○芙蓉の葉芙蓉のごとく花紅白五一重多重わかせ
赤い木槿仰く大多り清く美多り
七月花さく
○龍膽の花指枝の花ひらのごとく
葉い蓬のごとく
九月のごろ花さく
俗ふうんごとく

芙蓉

龍膽
えやまぐさ

○秋葵い一名黄蜀葵とも又側金盞
葉とろとせぐくきき
わり秋うと美のろ
花さく俗ようろ
○莠い穂ろ仰く
実多一名狗尾
草と永栗の中に
まと俗ようのころ
草とい
○金銭花い午時
花ともい秋花く
ろい紅ろろい
一名子午花

秋葵

莠

金銭花
ごーくい

○蘭は草ひくくして葉みどりなり水沢のほとりふかきに花黄白ふたつあり

葉は品類多し

○風蘭は一名を桂蘭とも吊蘭ともいふ数多

岩蘭岩石蘭かしこあり

○鶏冠は葉莧に似くあし長く茎赤し花も赤黄又は赤りて六七月花さく名は猿手あり鶏頭

花も書なり

○秋海棠は秋

花くきを切て茎葉ともふ色あるを

○剪秋羅の花
石竹のごとく朱
色にして美方
六月花咲ふ
黑しのくも山野辺

○剪春羅の花
の色せんとうろう
落く黃色あり

○薏苡の子白と
黑あり薏苡子と
ゝ五膈を治す

剪秋羅

剪春羅

薏苡

○百合の品類多
此花三月末より咲
紅うもと紅あり

○卷丹は六七月に
花さくたゝして黃
赤しゝ点もちら
のびし花多くさく
蕚の色にゝゝき黃
とすもと一名番山丹

○山丹は四月初ふ
花さくふくして赤
白あり赤は極朱也
うるはし渥丹同
じ外數多くあり

百合

卷丹

山丹

○他偸は四月の末より花さく其品多し花黄色あり山ふき花色ふ稙くさりあり又秋さく花もあり

○麗春は三月に花さく一名ひなけし又御仙花とも

他偸

麗春

○金盞花は花のかたちは盞の如し色赤し三月花さく今俗にも金盞銀花とも云金盞花は別稙なり

○春菊は花白く小ひ黄なり三月花さく蒿菜花とも人の用食を

金盞花

春菊

○蒲公英の花
白き大なり黄花
いふなり二三月よ
花さく葉ばかり
て食を

○堇菜の一名紫
頭草とも云
とりどりあり花紫
白花又うすき紫乃
りの葉丸くふち也

○虎杖の月水ばか
通利し瘀血を破る
渇ばやめ小便を利
腫をとり痛を治

○萱草の花
卷丹のごとく黄
赤く秋夏よ咲
春苗葉ばかりて
食を水氣乳よ
くを痛を治を
食ばかり清をこのん
でくつが脫てミを
ひるし花を生
のりのい毒ありあや
ゆて喰べべし

○酢漿の一名酸
草といふ俗云
とりのごと

○射干いひわうぎ
ともいふ葉のうちに
擔扇ふ似うち花い
黄赤しく六月花
さく烏扇烏翼
なしびふ同
○蝴蝶花い射干
の類なり三月白き
花咲黄き中にわう
俗ふやぶらんとふ
ちやい射干の音
を誤りしなり
○夏枯草い野う
ち紫紫花咲

○鴟尾い葉い射
干に似うち花い
ひうちに似うち花
を紫羅傘と
いふ四月花さく
○馬蘭い沢辺
ふすきを菊ふた
花いあやめに似く
細しく色もうに
馬揀しもいふ
の和ふ花さい

○牡若は水中に
生じて花天ふして
色桔梗の花ばな
にくうるわしく
のうしのふ花さく
○菖蒲は花牡
若ふ似くふさく
葉も細しく菖
蒲と云い別種也
花もしく花菖
蒲と云也一種也

牡若

菖蒲

○様錦は六七月
葉紅あり黄緑
色ぶちなると十様
錦といふ又唐素紅
紅なる紙唐朱紅
といふ俗よ葉鶏冠
といふあり
○桔梗は花紫色
白あり一重あり
秋五六月ふひく
梗草とあづく

様錦

桔梗

○烏頭ハ花ハ
やうの花の色ハ
かさち烏の頭に如
し赤さ色ぶと
ろこちに似り
九月花さく
○鳳仙花ハ花ハ紅
白あり七月より
さく又金鳳花と
いふ花ハ黃色熟
あり

烏頭
ぶと

鳳仙花

○番椒ハせんき
を活し出とこ
ろと人へよどくこと
○丈菊ハ一名ハ逆
陽花といふ日輪
ふむふ花ハりよ
つく日車ともこ
花菊ふ似く大也
色黃又白さも
あり
○杜蘅ハ葉ハ馬
蹄に似り紫
の花咲馬蹄香
土細辛といふ

番椒
丈菊
杜蘅

○薔薇い花紅白黄爲紅あり千重のもの紅牡丹いばらとひとしくあり蔷薇とも云一名月くさ紅又長春とも云

○慎火い一名景天又い戒火とも云小さく紅佛甲草とも云

○苔蘚同水にあり陟釐とも云石上生る石濡尾ともあり屋漏墻と垣衣とも云

○酸漿い五月に白き花開実赤くそうろうれとしよろく金燈籠竜とも云

○旋覆い葉より花い黄なり菊に似て六月に花さく又九月まで花紫花とい黄なり

○藤ハ三月の末
ふ花さく色紫ハ
おとく花の長三
四尺よ及ぶ白花ハ
早くさいて綠
一名招豆藤
○石斛ハ石上ふ
生ると胃の氣と
平にし皮膚
の邪熱とをとる
名石蓯

○棣棠ハ花黃
て一重有八重ア
三月花さくわらひ
ハ地棠花とゐく
○卷栢ハ一名を地
栢と云石間ふ生ス
生ふく用ゐハ血
と破条ゐハ血を止
○玉栢ハ一名万年
松とも云長さと石
松ハ玉蓯とも云

○葦い水色又は芦ともいふ葉ざる紙芦とのひ長成とも芦とも葦とも蘆い竹ふ洲く花い荻のごとし

○蓮い花紅白色葉を荷とのひ根を藕とのひ花を芙蓉とのひ実を蓮菂とも

○菖い一寸九節なるものを菖蒲と名付冬至の後五十七日ふてもしをれずと

○菰い水色にて生ずる菖ふくろ一名茭草又蔣草ともいふ

○蒲い水色にて生を絶ふ纖べ一蒲槌のまかこ花上の黄い粉を蒲黄と云

○萍い水上にあつて根ふ一血色にて如

くなるとき薛ニ
○薛い水辺に生ず
香附子の苗に似たり
一名莎草白薹
○蘭い沢地に生ず
葉糸の細く長し
麻酒小葵に用ひ
○芡中に補ひ
すると多く食い風
寒冷ともに
と芡実と
○蓋い九月十月に
る緑色に緑と染
一名黄草茎行毒
○菪い水底に生ず
葉い釵のごとし上青
くして白し

茅ふかぶかしたる苻
○苻い草に似たり
毛あり茎ふとく毒あり
実も毒あり
○蘇いろ方ふ
て茎ふとく歯色
紫あり桂荏同
実も茎も薬
ふりもの
○蓼多いろくらん状
やや水氣面にそだ
ると活目
○芎藭蓄い二月に
ちいさ紀茎を
生ず和名ふとき
き扁作同

○菊い百種あり
花も数品あり
痛目紙ぬるよ
し年とのぶと
いろ葉ふい黄色
ある菊と種あり
○苣い蓴ゆ
皮い縄ゆい履ふつ
くるあり大と石芒
小と芒芒とあり
○薤い白蘊と
いふ山野ゆ多く
すゞ油ゆ
えのあづとあり

○牽牛い葉三
尖あり花いむと
き白いむ一ゝ
ゆ花出
て紅紫花入花形
も品あり
○敷子い花のと
ち軍中ゆ吹敷子
のごと故ふ敷子
花ゆ又ゆ旋蕾
花ともいふ
○蒴藋い枝ゆ
五葉花白く実
青く緑豆のごと
痛所ゆ小ゆ
煮し洗ふて
一名接骨草

○水仙花の葉の
細くして花ひらく
細長すぐに花の
くきに酒盃の如く
黄なる細弁花びら
の白しろく全
盃狭長しい人
参ふい石蒜ゆくり
○麦門冬の実月
ふうとむらさきの
花ひらく実緑色
ちく孫のごとく九
月秋のはじめの頃
根と葉と用ひ

水仙花

麦門冬

○瞿麦の花の色
紫なる六月ふさく
咲の糸に多くを
出い彩花ありき
も多くあり
○石竹の種子ふく
仰く花紅白ふの後
なり後稍ありて六月
月より花さく一名
唐ありり
○玉簪の葉大なる
秋花さく色うを
数ふありて色もの
もう一名白鶴仙

瞿麦

石竹

玉簪

○蒼朮は花うを
赤く脾とをこす
ふ〜湿気をとる中
をゆくを山薊と
もいへ花ゆきを白朮
○木賊は目のをと
を退積堰と清を
和名とくさ板をと
ろ〜磨て用る
○山葱は一名を漏
葱ともいへ鹿耳
葱ともいへ俗ふ
いへぎ〜〜やん
ぐをと

蒼朮
かけら

木賊
とくさ

山葱
やまねぎ

○石荷は一名虎耳
草とへ水湿の地
にはをか月花咲
○馬勃は湿地ち
ホのうへをふは
どのとのいくこ瓜
ぶをこ庾菰牛尿
菰とかつく
○石韋は湿地に
はと葉大ふて
ひく皮のごと拔
ふく一茎ふ〜はど
労熱乾熱をつく
とう麻痺を治を
○螺靡は一名鏡面
草とへ一石上ふはと
ひくこをこ豆ごの

石荷
ゆきのした

馬勃
ほこたけ

石韋
ひとつば

螺靡
まめはぜ

○芭蕉は葉落
ち一葉の方は
一繋焦ようくこ
ゝ成芭蕉とゝ
○苧皮とゝ
布と織さし布は
こゝより紵同ら
ゝ
○艾は苗とは
秋ゆき花さく艾
高ゆゝ蓬蒿
とゝ
○蘚は腰背ゝ
こゝろゝる成治
腎とをきゝひ補
とゝくし精は
ゝ見とゝ

○華蔓草は
ゝのゝちけもんの
ゝふくゝ
為ゝゝ三月
花さく
○鼠麴はふく美
る花さく鼠の耳
の毛ゝゝる実と
ゝゝ鼠耳草と
もゝ
○羊蹄は一名禿
菜ゝもゝ牛舌菜
ともゝ実と食蕎
麥とゝ

○陵苕い木にまとふ蔓にして秋とゝ花咲るゝ赤〳〵と陵霄花といふ

○藍い葉蓼ふ似て大なりあゝでの如く葉の中に黒きて六月に紅の花さく茎茎染色にして

○茜いあ花を染めしゝ草なり一名地血といふ染緋草ともいふ

○山薑い葉姜ま似て花あ〜まい草豆蔻ふてはい杜若ふゝうり名

姜草

○澤漆い葉馬歯莧ふ似うり漆ふてみどりまゝ花さく毒草なり

○蕁麻い葉瓠の葉ふのごとく中空ちゝ入ゝ秋花さ花実ふをぶ実ふ刺あり

○蒼耳の葉茎子のごとく風湿つきて氣欝すれば目とゞまるふしにちぶさと渡る

○車前はゆゑ紀かと出を七八月の比実をとる茅茨牛舌同

○龍芮は四五月ふ茎なる花と紀実とむちぶさ豆のごとく一名地椹

○防風は四月ふ葉となし二月に茎なる花さき六月ふくろ実をむすぶ

○紅花は血とやぶ血のつきを癒す大ぶんを癒ぎ

○積雪はなを名つけ花をとりて紅とす

○苦参は参ふ槐ふ似たり花黄色にして実はやゝ長く根はゞにゞ水槐地槐同

○蛇牀は気をとゝ中をとめくめ癒をおい風ふさる油牀蛇粟同

○鼠莽は実は天蓼の実にて毒あり
○葛は粉は渇を止ゑづくをよく胃をひらき酒をよく解し大小便を利し熱をさる
○紫草は九竅をつうじ水を利しえき代消をやうさうにす一名茈草
○鴨跖は野外に生じ花あをし碧蟬花 笠竹花 並同

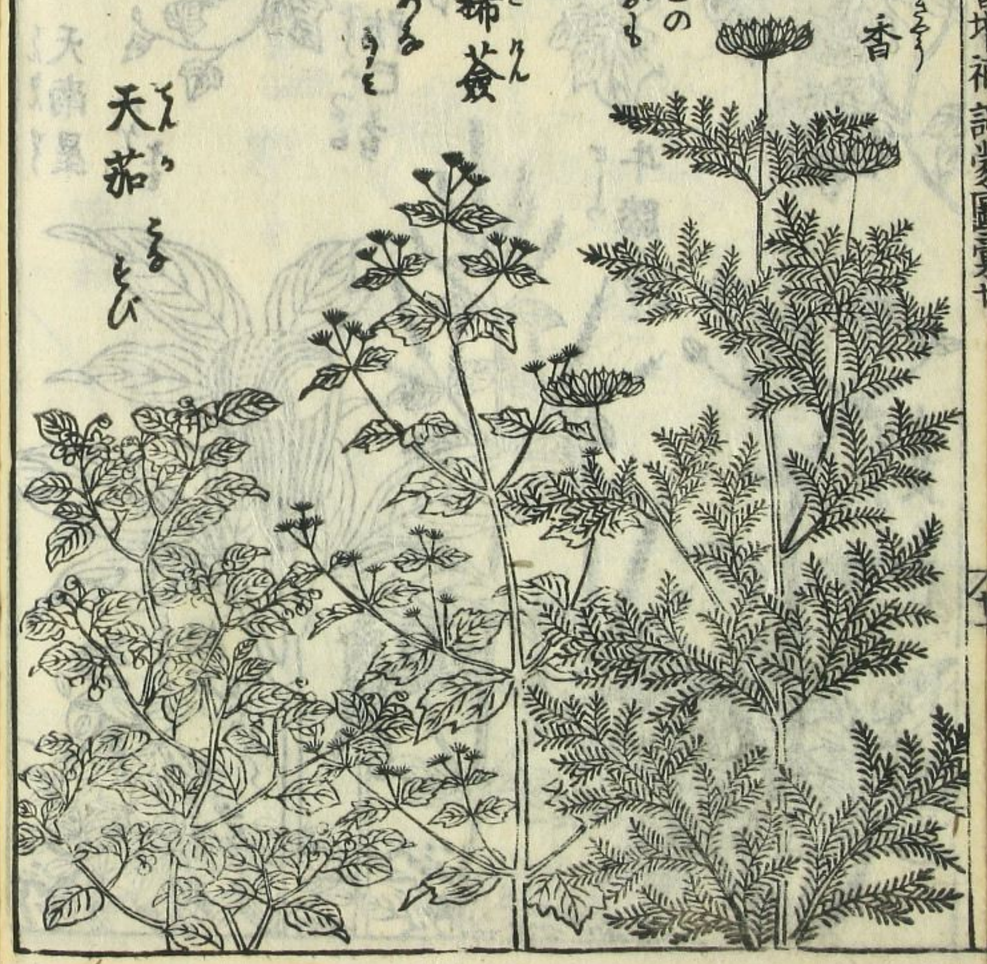
○南星は風疾を治し多くやぶりこをだくるふはつ虎掌鬼臼藭藭と云
○防已は風湿脚氣の痛を治し癰れ痛を治を解離せ云
○牛膝温ふてきびき女腰脚いたむを治す山莧菜 對節菜
○水莨はおそりにはまをすに自きはつるあり大毒あり
○絡石は蔓藤の如く花白く実白石とまつふ

○茴香は疝氣を
のぞき腰をよわ
くする紙を買紙
わらむ蘿香同
○蘼蕪は花英
白かり一さの毒
虫のさしころふに
葉にもて汁を
付くべし
○天茄は一名蕪菁
こいふ茎ふ茄子を
小ゆり八月の頃
わさと白花をひら
きゆきまを実の

茴香
生のかた

蘼蕪
ひるむ

天茄
てんなび



○芎藭は芎藭と
笑るしの小蘋蕭蒿
同邪氣を拂ふ
○荒蔚は益母草
こいふ濕地よりそ
○茵蘭は葉のう
ら白くまこまる九
月ふかを花実が
る花さく
○玄及は実を五
味子こいふ枝を初
めにつけ垂は孫
なるを卯の油のう
に製ふ為る
○地膚は若葉をく
らふ為る帚獨帚同
此木を帚こを

青蒿
せいこう

荒蔚
こうい

茵蘭
いんらん

玄及
げんきう

地膚
ちふ

○忍冬は木にまとひつく葉まるく毛あり三四月花さく紅白く後に黄色なりつる金銀花とも

○茅は水を止血と破り小腸を利し消渴鼻血下血孤淋を治す黄とも

○萍蓬は水沢ふかきを蓼慈姑ふかきは水栗骨蓬同

○藻は水にある葉大なるは藻茅のごとく水藻と云る尾藻なり

○菝葜は山野に生て刺あり茎くして大なるの蹄のごとく秋あかく実のる

○萩は郊野に生ずる所処に萩と云葉きたなくして花紅白あり大なり

○建蘭は今の白蘭なるべし
蕙花ともいふ
鉄脚蘭ともいふ
○金燈は石蒜
どいふちびとぐるま
一名鬼燈檠ふ
蔓珠沙花とも
いふ秋の末赤き
花さく茎は矢の
如くにして一枝花

○石帆は石上に生ず
○莖はくきなり
幹同莖の衣を
苞といふ花も
草根も葉といふ
さのごとし
○臺は花萼なり
どのたぐひ蕚
同
○葩はまびなり
花片 花瓣 並同

○蔓はうるあり
木の木と花とつく
草のかい蔓とも

○苞はつかとあり
蒼蕾同

○蓋は花のちご
なり蕊葉か
らびふ同又花心
とも

○蕚かくるあしと
なると花蔕花
附あびに同

早稲田大学図書館
011688990930